

県政報告

守屋てるひこ県議 小田原

県西部テーマに一般質問

5(完)

小田原市区選出の守屋てるひこ(輝彦)県議が昨年12月の県議会定例会で一般質問に立ち、県西部に密着したテーマで黒岩祐治知事ら県幹部に答弁を求めた。本紙では「紙上県政報告」として、詳しい内容を連載する。

伝統工芸産業の振興

小田原の技術所 在り方検討

(質問) 伝統的工芸品産業に 木細工や小田原漆器



県議会で一般質問する守屋てるひこ議員

指定されている箱根寄客の土産品として人気があるほか、箱根駅伝のトロフィーにもなっており、また最近の小田原市名物「小田原どん」を通じて、小田原漆器の良さをあらためて多くの人に感じ取ってもらっています。こうした伝統的工芸品産業に携わる職人の支援や指導をしてきたのが、産業技術センターが、産業技術センターが、

は多くの方々に知られています。箱根寄木細工は観光客の土産品として人気があるほか、箱根駅伝のトロフィーにもなっており、また最近の小田原市名物「小田原どん」を通じて、小田原漆器の良さをあらためて多くの人に感じ取ってもらっています。こうした伝統的工芸品産業に携わる職人の支援や指導をしてきたのが、産業技術センターが、

の工芸技術所(小田原市久野)です。

工芸技術所は昭和12年に設置されてから、75年以上にわたり伝統的工芸品産業の振興に寄与してきたが、県の緊急財政対策で移譲等を検討するとう方向性が示されており、関係者が不安を抱いているという話が伝わってきてお



「いぶき会」の若手メンバーと(県産業技術センター工芸技術所)

わせて、新製品の開発やデザイン指導など、売れる商品づくりに向けた支援も行っているところ。また、後継者不足の課題に対しても、積極的に取り組み、現在では「雑木囃子」という箱根寄木

次は、工芸技術所のあり方についてです。今回、緊急財政対策で工芸技術所は見直し対象の一つですが、県として地場産業、そして神奈川県を代表する伝統的工芸品産業の振興を図っていくというスタンス自体は、変更するものではありません。一方、こうした点を踏まえても、限られた財源、資源の中では、工芸技術所が持つ機能の維持について、どのような形が最善か、地元と共にそのあり方を検討していく必要があります。これまでも、事業者団体や地元市町に対して

は、緊急財政対策の取組の趣旨をいかに説明し、工芸技術所のある方々について意見交換を行ってきたところであり、引き続き、事業者団体等と建設的な議論を重ねてまいります。伝統的工芸品産業に携わっている方々、パネリストとして参加した方々、この「雑木囃子」は今年、神奈川県文化未来賞を受賞しております。2年前知事が小田原で「対話の広場」をした時にも、パネリストとして参加したと記憶しております。ぜひ、こういった若い力を残すためにも、工芸技術所のある方々、地元と一緒に、検討していただきたいと思います。